

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 授業における学習姿勢の確立と家庭における学習習慣の定着をはかり、合わせて基礎学力の定着・向上をめざす。 ② 集団生活(行動)を通して挨拶や礼儀、マナーやモラル、規律の大切さを考えさせる。 ③ 学校生活を充実させるべくクラブ・生徒会活動に関心を高めさせ、積極的に取り組ませる。 ④ 保護者と連絡を密に取りながら、学校(学年)との信頼ある連携をはかる。		「時間で行動できる」「気持ちの良い挨拶ができる」「きちんとした身だしなみや礼儀正しい言葉遣いができる」「社会や学校のルールを守って行動できる」「よりよい集団作りができる」という学年の目標をもとに取り組んできた。その結果、多くの生徒は高校生としての成長が見られた。来年度以降は、中堅学年としての自覚と個々の進路実現に向けて目的意識を持った高校生活を送ることができるよう支援していきたいと考えている。			A	
	目標	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	家庭学習の習慣を身につけさせることで、学習習慣の確立と基礎学力の定着をはかる。	生徒が学ぶことの意味や根気強く取り組むことの重要性を認識させ、家庭学習の習慣を確立できたか。	家庭学習時間が充分でなく、学力面で伸び悩んでいる生徒が多いので、主体的に学習する習慣が身につくよう指導していきたい。		○	
2	ベル着の徹底など時間厳守を意識させることで、授業への集中力を高めさせ、また提出物の期限厳守などの恒常化をはかる。	生徒自らが、先を見越した行動をすることができたか。	ベル着の徹底はひと頃よりも改善されたが、今後も継続指導が必要である。提出物については、粘り強い指導と、自己管理能力の育成に努めたい。		○	
3	コミュニケーションをはかるための第一歩である挨拶の励行を心がける。	自分から積極的に挨拶ができたか。	自主的に挨拶ができる生徒は多いが、引き続き気持ちの良い挨拶ができるように呼び掛けていきたい。	○		
4	携帯電話やスマートフォンの自己管理などについて注意喚起し、学校のルールを守らせる。	生徒自らが、時間にけじめをつけることができたか。	スマートフォンに依存している生徒が多く、今後も家庭との連携をとり、節度やモラル、マナー等を継続して指導する必要がある。合わせて生徒会校風委員会など生徒自ら考えさせる指導も必要であると思われるので、呼び掛けて行きたい。		○	
5	朝読書・毎日ドリル等を活用して1日をスタートさせ、落ち着いた雰囲気の中で授業への集中力を高める。	静寂で緊張感のある1日の始まりの中で、学ぶ意欲を持たせる環境作りができたか。	取り掛かりが遅い生徒もいるが、概ね落ち着いて一日を始める雰囲気形成されている。読書に意欲的ではない生徒への指導が継続して必要である。	○		
6	クラブ活動や生徒会活動等自主活動を奨励し、充実した生活を送るようにさせる。	自主的かつ意欲的な活動を通して、生徒が様々な経験ができるように支援できたか。	部活動の加入率は高く、活動に充実感を持って取り組んでいる生徒は多い。生徒会活動への積極的な取り組みも呼び掛けたい。	○		
7	ルーム長会を機能させ、行事等の充実をはかり、いじめのない学年をめざす。	自治的に集団を運営することで、生徒への認知度を高め、指導力を発揮した集団作りができたか。	学年集会等の進行など、ルーム長会を中心とした学校行事の運営ができた。更に、学年の中枢としての意識を持たせていきたい。	○		
8	学年通信を通して、保護者に学校の状況を把握してもらい、保護者との良好な関係を築く。	学年通信等を通して発信しながら、保護者が学校の様子を把握できたか。	今後も継続して学年通信やオクレンジャーを活用し、家庭との情報の共有化を図っていきたい。	○		
9	生徒の問題を学年全体の問題として捉え、協力して対応する。	学年団の連携が緊密にとれ、迅速かつ的確な対応ができたか。	今後も継続して学年団の連携を密にしながら、生徒に適切な対応ができるよう、来年度以降も心掛けていきたい。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
<p>学校生活全体を通し、主体的かつ自律した人間形成をめざすとともに、仲間を思いやる豊かな人間性を育む。</p> <p>① 目的意識を持って自分自身の生活を企画、実践していく能力を高める。</p> <p>② 主体的にコミュニケーションをとり、人とつながる能力を高める。</p> <p>③ 集団を自治的に運営する経験を通じて社会的な意欲と社会性を高める。</p>		<p>学校生活全体を通して、時間通り集合し、与えられた課題をやり遂げることは比較的できている。学校生活もおおむね安定している。一方で主体的に目的意識を持ち、課題点を見つけ克服に向けて努力する点がやや欠けている。コミュニケーションの点も、生徒の間ではラインで済ませることが多い中で、人とのつながりをどのように高めていくか今後の課題としたい。</p>			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	家庭学習の習慣化をはかるべく、提出課題を含めた学習を中心とした生活を確立し、進路の意識を高める。	日々の学習に意義を見出し、各自の進路に向けて目的意識を持って、学習活動に取り組んでいるか。	与えられた課題に対する取り組みはおおむね良好である。各自が主体的に目的意識を持ち学習に取り組んでいるかは課題がある。		○	
2	毎日の挨拶を大事にして、人とのつながりの大切さを認識する。次の行動を意識した生活を促す。	気持ちの良い挨拶ができたか。集団生活を意識する中で、時間を守り、今何をすべきか、次何をすべきかを考え、行動できたか。	学校内でのあいさつは良好である。授業も始業時の「ベル着」は徹底できている。修学旅行においても5分前行動がほぼ実行できた。	○		
3	スマホや携帯電話の使用の際、時間にけじめをつけ、かつ正しく使用しているかを常に意識して、自己管理ができるよう促す。	有用な使用をしているか、けじめをつけて使用しているか、トラブルに巻き込まれることはないか、歩きスマホをしない、SNSなど不適切に利用していないか。	授業中の使用はほとんどなくけじめを持って使用している。また、スマホを利用した進路先検索など有用な利用をする指導も実施した。ごく一部依存的な使用をする者や休み時間のゲームも問題である。		○	
4	手帳を有効活用することを通じて、自己管理能力の育成・向上をはかる。	提出物の期限を把握したり、個々のスケジュール管理に役立てることができたか。	提出物の状況はおおむね良好である。学校行事などの情報伝達も比較的スムーズにできている。	○		
5	クラブや生徒会活動における全校の担い手としての意識を高める。	伝統を引き継ぐと同時に自分たちの代で何ができるか、意欲を持って活動できたか。	時間通り集合して活動することはできる。自分たちで課題を見つけて取り組む点がやや物足りない。		○	
6	R長会が学年全体を動かす中心的存在として、意識を高め行動する。	各行事を通して、学年全体の手本となるように、主体的に行動することができたか。	学年行事の司会などの活動を通して、生徒の中心として、学年の一体化をはかることができた。	○		
7	生徒の問題を学年全体の問題として捉え、共有し、協力して対応する。	学年団の連携が緊密にとれ、迅速かつ的確な対処ができたか。	正担任の間では、個々の生徒の状況などを緊密に連絡し合い、共有化し対応することができた。		○	
8	保護者への情報提供を迅速かつ細やかに行う。	学年通信やオクレンジャーを利用して、家庭が学校の様子を充分把握できたか。	学年通信やオクレンジャーを通して、様々な連絡の徹底を図ることができたと思われる。継続したい。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
④ 卒業後の自律と自立に向けて、目的意識を持った生活を考えさせ、実践することができる能力を高めていく(希望する進路の実現をはかる)。 ⑤ 主体的にコミュニケーションをとり、人や社会とつながる能力を高める。 ⑥ 集団を自治的に運営する経験を通じて社会的な意欲と社会性を高める。		生徒一人一人には最後の一年間ということで、「やりきる」ことを求めてきた。生徒会活動やクラブ活動では、自らの立場を自覚して互いに協力して活動でき、クラブでは多くのクラブが県大会に進み、精神的にも成長することができた。進路については目標実現を目指して、努力を惜しまない姿も見られ、センター試験受験者も約7割であった。個別試験で進学を希望する者も多かった。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	進路に対する意識をより高めつつ、進路目標を実現させるための具体的な取り組みが、一人一人主体的に展開できるように支援する。	生徒が自分の進路に真剣に向き合う中で、必要な情報の収集や研究、更には各自の進路実現のための必要な取り組みを実践できたか。	動き出しが遅いように見られたが、進路実現に向けて意識が向上した生徒が多数いた。推薦は前年より増加したが、センターや個別試験に向けて主体的に取り組む姿勢、結果を出そうとする意気込みがあった。		○	
2	進路目標に対応できるだけの学習時間の量的な拡大と質的な向上をはかるよう促していく。	一人一人が自分の目標や志望を明確化することで、実現に必要な学習時間を確保し、より効率良い学習を進めることができたか。	徐々にではあるが、学習時間を増加させ、学習に取り組む姿勢を示すことで、学級や講座、仲間に対して互いの学習意欲を刺激し合うことができた。		○	
3	手帳を利用した自己管理を更に促すとともに、卒業後を意識した社会性の育成やコミュニケーション能力の向上を目指す。	卒業後の自律と自立、周囲との協調を目指して、自分を適切にコントロールし、周りを意識した立ち居振る舞いできたかどうか。	まだまだ精神的に甘く、自己中心的な考えの生徒もいるが、全体的には自己管理やコミュニケーションの必要性に気づくと共に、行動に責任を持つようとする生徒も増えてきていた。		○	
4	クラブや生徒会など生徒の自主活動を支援し、最高学年としての自覚を持った活動を促していく。	最高学年として全校をリードする中で、より意欲的に活動に参加し、意義を見出すことができたか。	クラブ活動と生徒会活動では共に、最高学年としての意識と自覚を持って、責任を果たし、中心として活躍できた。また行事などでも全校を牽引できた。	○		
5	R長会を自治的に運営し、学年全体を動かす存在としての自覚を促す。	自治的に集団を運営する意味を認識する中で、積極的な活動が展開できたか。	昨年比、活動機会は少なかったが、日頃よりリーダーの自覚を持ち、中心としての行動が取れた。	○		
6	職員の情報交換や連携を重視し、学年全体で支援体制を構築する。	学年団の連携が緊密に取れ、迅速かつ的確な対処ができたか。	情報交換だけではなく、各係(生指・進路・支援等)と連携を取り、適宜、対応することができた。	○		
7	保護者への情報提供を迅速かつ細やかに行う。	学年通信やオクレンジャーを利用して、家庭が学校の様子を充分把握できたか。	適宜、通信やオクレンジャーを通して、情報を提供しつつ、連携を取るよう心がけるよう努力した。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 諸行事・諸会議の企画・運営を積極的に見直し、効率的で適切な学校運営をはかる。 ② 校内の各部署と綿密な連携をとるとともに協力し合い、円滑な学校運営をはかる。 ③ 学校・生徒の活動を積極的に地域に発信し、地域に開かれた学校づくりをはかる。		土曜公開授業の見直しや実践的な防災訓練の実施など、新たな提起をし、HPの定期的な更新などの前年からの課題にも取り組んだ。その結果、一定の成果は得られたものとする。今後は学校行事のあり方などについて、さらに関係部署と連絡を密にとり、早めの対応をとりたいと考えている。			A	
N O	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	職員会議・成績会議・朝会の企画・運営	効率的で適切な民主的運営ができるよう工夫されたか。	職員会議の開始時刻がやや遅れることが多いが、議事は概ね円滑に進めることができた。早めの議題提出を引き続きお願いしたい。	○		
2	入学式・卒業式・始業式・終業式の運営	関係部署と協力し、効率的で適切な運営ができたか。	定刻に集合・整列する習慣が定着しており、ほぼ予定された時間内で効率的に運営できた。	○		
3	体験入学・公開授業の企画・運営	PR活動・渉外活動を含め、適切な企画・運営を行うことができたか。	体験入学には例年と同様に近隣の中学校から多くの中学生・保護者に参加いただくことができ、生徒会執行部の協力を得て、ほぼ計画どおり運営できた。土曜公開授業の是非について検討を進め、一定の方向を決定することができた。	○		
4	入学者選抜業務の企画・運営	綿密な計画を立て、関係部署と連携して、確実に適切な運営ができたか。	現在、取り組み中である。従来の方法を基本としながらも、「実施計画書」の形式をよりわかりやすくするなど改善を図り、間違いのないように万全を期したい。	/		
5	時間割・行事計画・日課等の検討・運用	無理のない合理的な立案・運用ができたか。生徒への周知徹底ができたか。	行事や特別日課については、月毎に「行事・特別日課」「月間予定表」を作成・配布して周知を図っている。次年度年間行事予定表・日課案については現在検討中。来年度時間割については今後検討。	○		
6	保全整美 防災訓練の運営	整然として利用しやすい労働環境を整えられたか。 工夫を加えた防災訓練ができたか。	防災対策として、長年放置されていた金属はしごの点検を実施した。防災訓練は封鎖箇所を設定して生徒への予告なしで実施するなど、臨場感のある訓練となるように工夫したが、避難状況の確認作業に時間がかかるなど、運営方法に問題が残った。また、災害・事故・事件などに対する具体的な対応マニュアルの作成などが今後の課題として残っている。		○	
7	ホームページの運用	定期的な更新ができたか。 閲覧しやすい工夫がなされたか。	「校長通信」をはじめ、学年・部活動・定時制の活動などについて、年度当初より1月末までに60件を超える更新ができ、学校からの情報発信に一定の成果を得た。	○		
8	視聴覚・情報機器・校内LANの維持管理	機器の管理・保全ができていたか。 サーバー内の整理が進んだか。	県管理のサーバーへの移行こともなっており、共有サーバー内の整理に努めた。ただし、部署ごとのデータ整理や不要データの廃棄はまだ十分に進んでおらず、今後の課題として残っている。		○	
9	芸術鑑賞の運営	生徒の関心と芸術的感性を高める企画であったか。	計画にしたがって大きな事故もなく実施できた。生徒の評価も良好であった。今後は、近隣高校との共催の是非についても検討していきたい。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 朝読書の充実 ② 図書委員会活動の活性化 ③ 明るい図書館		・図書委員は月1回の学級文庫の入れ替え作業で、クラスメートに多くの本の提供に努め、今年度も朝読書を実施することが出来た。 ・日常の図書当番はきちんと行えた。また、本や作者の紹介等による壁面装飾、「図書館だより」も広報活動として定着しつつあると思う。 ・蔵書の展示の仕方や本のアナウンスの工夫等もあり、館内が明るくなった。それに伴い図書館利用者が増えた。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	朝読書及び読書指導	生徒が朝読書を通じ、自分の選んだ図書に興味を持ち楽しく読む姿勢をつくり得たか	朝読書の時間にはオルゴールを流して雰囲気作りをした。	○		
2	委員会活動	当番活動を始めとして、広報活動・選書活動・調査活動等に積極的に取り組めたか。	当番活動、月1回の学級文庫の入替、壁面や図書館入り口を利用した推薦本等の紹介等を行った。又読書旬間の各種催し、クリスマス時の絵本の朗読放送、「図書館便り」の発行。保育園への読み聞かせを実施。	○		
3	教科との連携	各教科との連携をスムーズに行い、資料等の情報を提供することができたか。	要望に応じて、資料の検索・相談・提供などスムーズに行えた。 図書館の蔵書を利用しての授業が増えた。	○		
4	蔵書管理システムの活用	図書館活動に十分に活用できたか。	日常の貸出や返却、資料検索などの図書活動に十分活用することが出来た。	○		
5	レファレンス・サービス	利用者からのレファレンスに対し、他館との連携などにより、資料の提供ができたか。 定時制用の書架設置	公共図書館との相互貸借を行うなど、資料の提供が出来た。 定時制の要望を受け、考えたい。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 自立した学習者の育成の研究と実践 ② 国公立学校等の推薦入試(小論・面接等)への組織的指導 ③ 保護者への進学状況の提供。(PTA各学年委員会との協力) ④ 職員全員による学校開拓、広報活動・進学情報等の共有 ⑤ 校外模試の活用、データの共有、有効活用 ⑥ キャリア教育の推進と鈴蘭アカデミーとの連携・協力		<ul style="list-style-type: none"> ・学習時間の不足が多く多くの生徒に見られる。今後も継続的な研究が必要。 ・組織的指導は定着している。次年度へ向けて、指導の継承を工夫改善したい。 ・保護者向け講演会や各種PTA行事を通し、進路情報を提供しているが、参加者の減少がみられる、社会の情勢変化もみられることから更に参加を促し情報提供していく必要がある。 ・大学訪問・進路検討会等、進路情報の収集に努めた。 ・生徒の学力到達度の把握、校外模試の見直し、進路教材の研究を続けていく。 ・今後に向けてキャリア教育、就業体験的活動の内容検討・改善が必要。 			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	適切な進路指導の実践	進路指導が計画どおり、バランスよく総括的に行われたか。	計画通り実施できた。	○		
2	学力の向上(自立学習支援)	学力向上に向けて自立学習支援の研究と実践ができたか。	毎日提出ドリルや家庭学習強化週間等を実施している。学習時間の不足と意欲低下が見られること、及び生徒の変化に対する指導方法・内容の見直し等について、低学年次より下位層を作らない指導を進める必要がある	○		
3	推薦入試等の組織的指導	職員の共通理解のもと、生徒一人一人に担当を決めて進路指導ができたか。	国公立学校の志望者に担当職員を割り当て指導した。私立大学の公募制推薦についても指導体制を導入したが、指導の内容の共有が不十分であった。		○	
4	保護者との連携	進路説明会・HP・新聞・通知等で進路実践の説明・報告ができたか。	保護者向け進路講演会は、1学年は5月・2月、2学年10月に実施。各学年のPTA総会等でも、進路指導について説明・報告している。社会情勢の変化も踏まえ保護者への情報提供の重要性は高まっている	○		
5	学校開拓・研究と進路情報の共有	学校訪問を計画的に行い、入試情報を得て職員と共有することができたか。	3年生の進路希望を考慮し訪問先を決定した。国公立については来年度に向けて訪問先の検討を進める必要がある		○	
6	進路情報・資料の活用	適切なデータ収集と提供ができたか。データの共有と有効利用ができたか。	各種説明会や上級学校の担当者との面談等により情報を収集し共有した。		○	
7	勤労観・職業観の育成	キャリアガイダンス・講演会・インターンシップ・「ようこそ先輩」など効果的に取り組めたか。特に、就業体験的活動は充実した実践になったか。	1学年大学インターンシップ、2学年講演会実施。就業体験は夏期休業時に実施した。就業体験については専門職種を中心に行ったが、1学年全体に対してさらにキャリア教育を充実させる必要がある	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)				総合評価
① 生徒の、将来の職業選択や自己実現のために必要な職業観を育むための援助をおこなう。 ② 生徒自身の自己理解を深める援助をおこなう。 ③□コミュニケーション能力を育むための条件を整える。		1, 2年生が将来の講座・進学・職業選択の参考になるべく必要な情報を与えるために就業体験、大学出前授業、大学インターンシップ、ようこそ先輩の4行事を実施した。大学関連の行事については理解が深まり例年通りの成果を上げたが、職業観を育む他2行事については、職種の幅を持たすことが課題となった。				B
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	自己理解の深化・職業理解の拡大	各種行事への参加や各種調査(進路希望・スタディーサポートなど)を通じて、生徒の自己理解の深化を援助できたか。	各行事を滞りなく行い一応の成果を上げることができた。幅広い職種に対応することが今後の課題。		○	
2	コミュニケーション能力の伸張	教育活動のあらゆる場面でコミュニケーション能力の伸張が図れるよう、カリキュラムや行事計画について必要な手だてを講じることができたか。	生徒が興味を持つ課題を選択し自ら積極的に参加することでコミュニケーションの伸張を図った。事前・事後のアンケートやレポート等で講師の方へフィードバックを行い、意見の交流を行った。	○		
3	情報伝達	重点目標実現のために有益な情報(ボランティア・各種体験などの募集)の伝達について工夫をし、伝達の徹底ができたかどうか。	就業体験の希望を募り、できるだけ希望する施設で体験できるよう交渉し実施に至ったが、昨年より規模が小さくなってしまった。ようこそ先輩では講師の職種の幅が狭く課題が残った。		○	
4	他の機関等との連携強化	児童館・病院・上級学校・保護者や地域の人々などとの連携を深め、生徒の自己理解や職業理解の援助ができたか。	大学、地域企業からの協力を受け、各行事を実施し、一応の成果を上げた。アンケートでは理解が深まった等の意見を多く見ることができた。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
①□ 全教育活動のなかで、相互の人格を尊重し認め合えるような人間性を養う。		一年を通して人権に関わる大きな問題はなかった。係として計画し、全校単位で行う人権教育はできなかったが、各学年の取り組みやスマートフォンの使用に関するアンケート、各教科の授業内等、学校の教育活動全体を通した様々な活動の中で人権感覚を磨くことができた。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	全校人権教育の実施	人権問題についての正しい理解と認識が深まったか。	全校規模で講演を聴くことはできなかったが、各学年で様々な取り組みを行うことができた。来年度は計画をして全校で行う機会が取れるようにしたい。		○	
2	職員人権研修会の実施	人権教育に携わる指導者として、人権感覚を磨くことができたか。	職員全体での人権研修会を行うことができず、各々に任せるかたちとなってしまった。来年度は早くから計画を立て行えるようにしたい。			○

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 規律ある学校生活の樹立をめざす。 ② 生徒への安全指導の徹底をはかる。交通事故ゼロをめざし、安全意識を高める。 ③ 問題行動のみならず、生徒支援委員会等と連携をはかり、生徒の心の問題に対しての支援体制の構築をめざす。		日常的・総合的な指導の一つの到達点として、生徒集団全体の生活規律は高いレベルで維持されている。交通事故ゼロという目標は達成できなかったが、軽微な接触事故で済んだ。必ずしも生徒一人ひとりの安全意識の向上の成果とは短絡できないが、安全全般に関する意識は少しずつ高まってきていると感じる。生徒支援委員会等との連携は更に追求していきたい。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	風紀指導	各学期の始めに全校一斉風紀指導を実施したか。	学期毎の風紀指導は、取り組みとして定着しており、全校の規律を高めている。	○		
2	交通安全指導	春・秋計4回の交通安全指導、2回の原付安全講習会を実施し、交通安全に対する意識を高めることができたか。 6月に全校生徒対象の自転車安全運転講習会を実施できたか。	春・秋4回の交通安全指導は例年通り実施し、定期的に生徒の安全意識を喚起するという点で効果があった。原付講習会は該当者が居なかったために1回の実施となった。年間を通して、重大事故がなかった点は良かった。	○		
3	生徒への投げかけかた	生徒指導通信等を活用し、様々な問題を生徒に発信をし、人一人の問題として考え、解決できるように努めたか。	・生活指導通信及び集会等の機会を通して、指導の意図については意識的に発信してきた。それに対して反応できる生徒も多くなった。	○		
4	校内研修体制の充実	人権教育係等と連携し、今日的な様々な問題に対して、専門家などから話を聞く等の教職員全体の研修会をもつことができたか。	人権教育については、継続的な取り組みの蓄積が十分ではない面があり、具体的にテーマを絞り込むことも難しいが、今年度は生徒支援と連携して研修会を設定した。		○	
5	指導の公明性	問題行動等、生徒への指導において、その根拠・手続きなどが十分に生徒・保護者に説明されているか。	指導を成立させるための絶対条件が、指導意図に関する生徒保護者の理解だと考えており、丁寧に説明してきたし、混乱もなかった。	○		
6	職員体制の確立	有機的な連携がとれる全職員の協力体制ができていくか。	十分な協力体制はあると考えるが、意図・手順・任務分担については再確認したい。	○		
7	保健係、生徒支援委員会等の連携	生徒の心の問題やいじめの根絶について、保健係や生徒支援委員会等と十分に連携がはかれたか。	何か具体的な事例が無いと連携を取りにくいのが、日常継続的な連携のあり方を模索したい。		○	

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 特別支援の必要な生徒が出た際の支援計画、支援体制づくりについて研究をする。 ② 職員向けに発達障害等の研修会を企画し、障害についての知識理解を深めてもらう。		特別支援の必要な生徒に対して、担任・養護教諭を中心として、個別に支援計画を立てて取り組んだが、次年度に向けて、学校全体として取り組む体制づくりを考えたい。 今年度4月より、障害者差別解消法が施行されたことを受けて、学校現場における合理的配慮についての研修会を企画した。多くの先生方に出席していただき、知識・理解を深めることができた。			B	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	発達障害の研修会の計画	職員が参加しやすい研修会が計画できたか。また、研修会を行うことによって職員の知識、理解を深めることができたか。	合理的配慮の基本的な考え方と具体例について、小諸養護学校の木内先生をお招きし、講演をいただいた。学校現場における支援体制の作り方や意思表示への対応の仕方について、理解を深め、校内支援体制の充実を図ることができた。	○		
2	個別の支援計画、支援体制についての研究及び情報収集	高等学校特別支援教育研究会で学んだ内容を基に、支援計画、支援体制について具現化することができたか。	学級担任・養護教諭を中心として、個別に支援計画を立てるにとどまった。対象生徒が限られていたため、支援は成り立ったと思われる。しかし、今後に向けて、組織として支援する体制づくりの必要性を感じる。		○	
3	校内の特別支援体制の整備	生徒支援(相談)について積極的に対策を講じ、解決に向けた取り組みができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 特別な配慮を求める生徒に対して、支援会議を行った。支援会議には、スクールカウンセラーだけでなく、外部の支援員の方々にも入っていただくことで、本人と社会とのつながりを作れた。 例年通り、ハートフル旬間など、積極的に生徒の話聞く機会を設けたが、これを利用する生徒はいなかった。委員会を開き情報共有を図るなどして、生徒状況の把握に努めたい。 		○	

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)				総合評価
① 校舎内外の清掃・美化 ② 委員会活動の活性化		・日々の清掃はよくできた。 ・施設が老朽化しているので見た目に成果を現すのは困難であるが生徒、職員ともに美化に努められた。 ・委員会は委員長、副委員長がよく行動、立案し委員をまとめることができた。				A
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	校舎内外の清掃・美化 ・清掃分担は、清掃しやすい場所、監督しやすい場所にするよう配慮し、通年、清掃が日常活動として定着できるようにする。 ・用具庫が機能的に使用できる状態を維持し、必要なものは購入する。	清掃は日常活動として定着しているか。 用具庫を機能的に使用できるように維持しているか。	・通年よく活動できた。 ・生徒の参加状況、職員の監督とにもよかった。 ・トイレ洗剤を新規購入し好評であった。 ・清掃道具の配布が十分周知できなかった。	○		
2	委員会活動の活性化 ・日常清掃を最も重視し、自分たちのクラスの分担の用具、清掃状況を点検する。また、ゴミの分別を徹底させ、箒の柄にヒモをつけるなど、細かいことに気を配る。 ・生徒会執行部とともに、校外清掃を実施する。	用具の点検整備、モップ洗い、ゴミステーション当番などしっかりと活動しているか。 計画に従って校外清掃が実施できたか。	・前期委員長、後期委員長ともに副委員長と連携し、非常によく計画、立案、行動できた。 ・ゴミステーション当番はほぼよくやっていたが、クラスによって全員がそろわなかったり、ホームルームが延びて来る時間が遅すぎるがあった。清掃後HRを検討してもらいたい。 ・校外清掃、文化祭清掃は計画通り行うことができた。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 生徒が心身とも健康な体で、安心し、安全に学校生活を送ることができるよう支援する。 ② 生徒支援委員会並びに特別支援教育コーディネーターと連携をはかり、チーム支援について検討していく。		・生徒の健康管理については、適宜情報提供や注意喚起を行いながら活動することができた。 ・特別支援コーディネーターと連携しながら対応ができたが、チームとして生徒支援委員会の活動があまりできなかった。今後工夫していきたい。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	基本的な生活習慣の指導	睡眠・食事・服装や薬に頼らないなど、生活習慣の改善がみられたか。	・保健室来室カードの記入で生活のふり返りを行っている。	○		
2	健康・安全意識の向上	定期健康診断を全員が受診したか。 必要に応じて専門医の受診を受けたか。 保健室の利用状況が健全であるか。 生徒の観察を通じてその健康状態を正しく把握できたか。 感染症の感染拡大は防げたか。 職員・生徒への講習会を実施できたか。	・校内健康診断受診は良好 ・夏休み前に定期健康診断結果一覧を全校生徒に配布した。専門医の受診の必要な生徒には再度通知を出した。 ・感染症対策として、保健委員会を動かしながら消毒、呼びかけなどできた。 ・心肺蘇生実技講習会、エピペン講習会を実施	○		
3	生徒支援委員会との連携	保健室や生徒指導係・特別支援教育支援コーディネーターおよび学年と連携がとれたか。 当該生徒に改善がみられたか。	・ハートフル週間実施したが、利用者は少なかった。PRの方法など工夫していきたい。 ・支援委員会、学年と連携しながら支援体制の充実を測っていきたい。		○	

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 会員が参加しやすい活動にするための工夫をする。		三役をはじめ、多くの役員の方、会員の皆様の協力により、PTA活動が順調にできた。総会への参加者が年々減少傾向にある。ただPTA 大学見学は参加者が倍増し一定の成果を出すことができた。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	PTA 総会	総会・学年PTA・学級PTAへの参加態勢が十分であったか。	保護者の総会出席数128名、学年PTA186名、学級PTA168名で例年よりやや減少		○	
2	鈴蘭祭PTA展・バザー	鈴蘭祭へ積極的に参加できたか。	教育活動部の活動により実施。会員の皆様のご協力で収益金72,000円であった。全定の生徒会に分配できた。	○		
3	大学見学	会員の進路指導への理解を深めることができたか。	教育活動部の活動により実施。8月4日に早稲田大学へ、保護者46名、職員5名の参加でおこなった。昨年より大幅に増加した。	○		
4	ソフトバレーボール大会	会員の親睦を深めることができたか。	残念ながら体育館周辺の工事のため本年は中止。			○
5	PTA 会報	活動状況を会員に伝えることができたか。	会報編集部の活動により、計画通り発行している。	○		
6	校外巡視	生徒の実態を保護者にも理解してもらえたか。	校外指導部の活動により、中込七夕祭り、野沢祇園祭り、千曲川花火大会、鈴蘭祭後夜祭後の巡視を計画通りおこなった。	○		
7	職員	職員相互の親睦を深めることができたか。	職員歓迎会、夏季親睦会など、各教科持ち回りでおこなっている。	○		

今年度の重点目標		領域の評価(成果と課題)			総合評価	
① 同窓生と学校をつなぐ渉外係として、総会、理事会、支部長会が、役員はじめ多くの会員の方々の意見交・情報交換の場として機能するよう活動する。 ② 同窓会活動が円滑に準備、開催できるよう活動する。		役員はじめ会員の方々と連携、情報交換をしながら活発に活動が出来た。 今後の展望を見据え、各方面と連携を取り、協力しながら活動していきたい。			A	
NO	評価項目	評価の観点	評価(成果と課題)	A	B	C
1	活動計画の作成	学校との連携を密にし、より学校、生徒の活動に役立てる計画になったか。	「鈴蘭祭」における同窓会展・「ようこそ先輩」への協力が計画通りに出来た。	○		
2	理事会・支部長会の準備・運営	より多くの役員の出席を得て、十分な意見交換ができ、スムーズな運営ができたか。	3回の理事・支部長会が行われ、活発な意見交換が出来た。	○		
3	総会の準備・運営	多くの同窓生の参加を得て、有意義な総会になったか。	6月11日実施。総会・講演会后、新体操部の演技披露・生徒会執行部による学校紹介が行なわれた。特に新体操部の演技に皆感動、有意義な総会となった。	○		
4	会報作成への取り組み	充実した内容になるよう、係として協力できたか。	5月1日発行。会報の「学校便り」には生徒の活躍を紹介、充実した内容となった。	○		
5	「発展させる会」との連携	連携が密にとれ、活動に協力できたか。	11月26日(土)実施。地域・PTA・職員・生徒に来賓11名も加わり、総勢107名でKJ法によるグループ討議を行った。アトラクションとして軽音楽部「+ナチュラル」が演奏。ダイナミックさと躍動感溢れる演奏に一堂感激。全体に活気溢れる会となった。	○		